学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
電話（3986）0221内線2607
http://www.gakushuin.ac.jp/press/
press@gakushuin.ac.jp
発行人　三瀬　健
編集人　大谷　聡
年間300円

芳林堂書店
BOOKS HORINDO
池袋本店 03-3984-1101
コミックプラザ 03-3984-0018
高田馬場店 03-3208-0241
所沢店 042-925-5505
所沢駅前店 042-925-5355
大井町店 03-3474-4946
祐天寺店 03-3792-2561
津田沼店 047-478-3737
西川口店 048-254-1131
関内店 045-681-0065

四大戦特集号

GAKUSHUIN SPORTS.
Gスポ
G-spo

四大戦21連覇

閉会式で優勝杯を掲げる、池原裕介運動部常任委員会四大戦推進局長（写真左）

総合得点	
学習院	158.5
成城	94
成蹊	113.5
武蔵	98.5

今年で第51回目となる四大学運動競技大会（通称四大戦）が、今年は武蔵大学を会場にして開催された。十月二十一日から二十三日にかけて、残されていた正式種目と一般種目、教職員種目が行われ、本学は正式種目、一般種目ともに優勝。昨年の20連覇の勢いを失う事なく、21連覇、通算41勝を達成した。

男子個人念願の優勝

卓球

【二十、二十一日　学生会館】

初日の団体戦は男女共に全勝。それぞれ決勝で対戦した成蹊大にストレート勝ちし、見事優勝を飾った。

二日目の個人戦、男子は椎直哉選手（政三・しい）が好戦。

キーポイントとなったのは二回戦だ。相手は団体戦でも辛勝した好選手。再び厳しい試合を繰り広げることは当然だった。

第一セットから素早いドライブと鋭いスマッシュの応酬。激しい攻防が続いたが、19－21で惜しくも競り負けてしまった。

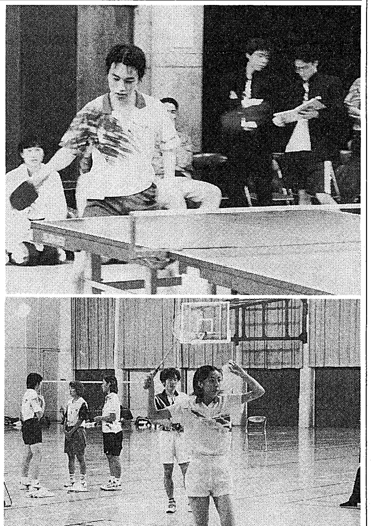
挽回を図りたい第2セット。「とにかく攻めようと思った」という言葉通り、椎選手はミスもいとわず積極的にスマッシュを打っていった。これが効を奏し、21－19で辛くも勝利。勝負の結末は第三セットに委ねられた。

その第三セットで互角の試合に終止符を打ったのは椎選手の勝利への執念だった。結局、21－18で激戦を制した椎選手はその勢いで優勝を手にする。男子個人戦の優勝は実に四年ぶりの快挙であった。

女子個人戦は岩村康子選手（心三）が奮闘。的確なカットサーブやドライブを武器に難なく勝ち進んだ。

決勝でも好調に攻め、第一セットは21－14で先取。しかし、第2セットで相手の必死の反撃にあう。相手は鋭いドライブを多用し、攻めの姿勢を見せた。それでも岩村選手はしっかりと対応。そのまま21－17と逃げ切り、優勝を果たす。試合後、「あまり自信がなかったので、優勝できてうれしい」と安堵の笑顔を見せた。

（高橋　充）



四年ぶりに男子個人戦で優勝した椎選手（写真上）
全勝した主力の一人平井選手（写真下）

逆境はねのけ十連覇

柔道

【二十一日　柔道場】

四大学の中では抜群の強さを誇る本学。期待通り終始他大を圧倒し、十連覇の快挙を成し遂げた。

試合は九選手による団体総当たり戦で行われた。第一試合の相手は成城大。本学は先鋒戦で負傷者を出してしまう。しかし、そんな苦境にも負けない活躍を見せたのは、最優秀選手にも選ばれた大道寺一憲選手（化三）。大道寺選手は骨折した肘をおしての出場だった。身長23cm・体重10kgという体格差のある相手に猛然と立ち向かう。試合開始後数秒でかけた上四方固めは、見事な一本となった。後続の他の選手の健闘も光り、結果は六勝二敗一分。逆境をはねのけて初戦を飾った本学は、一気に勢いづいた。

続く武蔵大戦も一本勝ちを重ね、六勝二敗一分で快勝する。そして、いよいよ成蹊大を相手に最終戦を迎えた。本学は善戦し、六勝二敗となる。声援がさらに熱を帯びる中での大将戦。菊池夏紀選手（物二）は攻めに攻めて足技から寝技に持ち込む。がっちりとした肩固めで反撃を許さず堂々の勝利。七勝二敗とまさに圧勝の本学だった。

「全員勝利」という目標を掲げて臨んだ今大会。他の三大学を圧倒し十連覇できたとはいえ、その目標の達成は残念ながら成らなかった。だが、負傷者が出たこともあり、万全の態勢ではない状態での今大会の健闘ぶりは十分評価に値するものだろう。

四大戦より規模の大きい大会での活躍も目指す本学は、さらに練習内容を深めて戦力の充実に努めていく必要がある。十一月に控える定期戦で、四大戦十連覇を成し遂げた実力の真価が問われることとなる。

（姥神一恵）

女子余裕の三連覇

バドミントン

【二十、二十一日　大学体育館】

「楽しくプレーできた」。試合後、女子の猪野志芳主将（日三）が満面の笑顔で語った言葉が、その圧勝ぶりを表していた。

試合は、2ダブルス3シングルスの総当たり団体戦で行われる。女子が二勝をあげて迎えた第三戦。ここまで同じく二勝の武蔵大と優勝を巡って雌雄を決することとなった。

対武蔵大の第三ゲーム。本学は二ゲームを先取。一気に優勝を決めたいこのゲームで、猪野・平井亜矢子（営二）ペアはその重圧を微塵も感じさせなかった。

第一セットで、両選手は相手の隙をつくスマッシュを次々と叩き込む。鋭い攻撃に相手は一歩も動けず、本学はあっという間に第一セットを手にした。

続く第二セットも両選手は好調を保ち、終始息の合ったプレーをみせる。相手の必死の反撃も隙のないカバーで封じ、逆に着々と得点を重ねていく。

一歩ずつ近づいてくる優勝にも両選手は惑わされなかった。結局二セットとも相手に点を許さず、女子の三連覇が決定した。

一方男子は、志摩基主将（政三・もとい）を中心に武蔵大と成城大に勝利。しかし成蹊大相手に善戦するも、一ゲーム差で惜敗し優勝を逃してしまった。

志摩主将は、「前年に続く男女優勝を果たせず不本意」と無念を語り、「来年こそは」と固い意志をみせた。女子も来年の四連覇への気合いは十分。一年後には、アベック優勝の朗報を再び聞けるに違いない。

（山西真帆）

終盤追い上げ四位

駅伝

【二十二日　武蔵大周辺コース】

四大戦の締めくくりとなる駅伝には主にスキー部の部員が参加、女子が競技上の不平等が生じたため、中止となったものの、男子は予定通り行われた。

一人六キロのコースを四人チームで競う男子では、本学AB両チームは序盤から苦戦、厳しい展開を強いられる。

Aチームの状況が好転したのは第二走者にたすきが渡ってから。野球部所属の持田雄平選手（政一）が激しい追い上げを見せ、第三走者にたすきを渡す時点で、七位から五位に浮上した。

その後も第三走者が粘りの走りで順位を上げ、第四走者もそれを保持した結果、四位でゴールを果たした。持田選手は「これも頑張った結果。しっかりやれたと思う」と語ったが、思ったほどの成績ではなかったのか、表情はさえなかった。

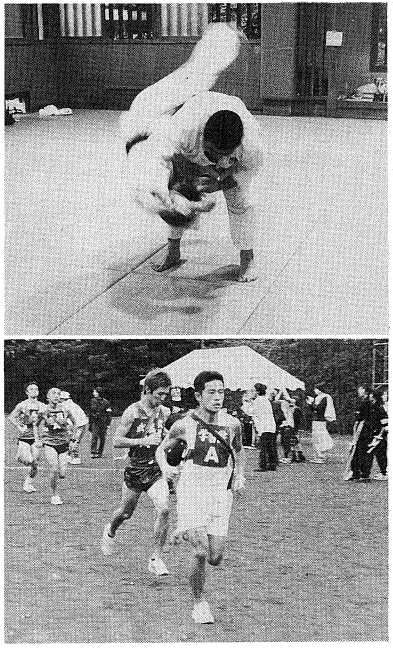
序盤から最後尾グループに甘んじたBチームは、第四走者が徐々に距離を縮めていく。一時はぴったりとつく体制になり、接戦はゴールのあるグラウンドに戻ってからも続いた。そこで本学が追い抜きを試みるも逆に武蔵大に間を広げられてしまい、結局最下位を脱することはなかった。

女子の勝敗の行方がうやむやになった分、男子に注目が集まったが、結果はそれに応えることはできなかった。今後の活躍に期待したいところだ。

（島津悠樹）

考える人と愛する人と燃える人とふれあいかわすこの夜とつくる
居酒屋
海賊
営業時間
17：00～24：00
TEL
03－3954－4229
目白駅　富士BK　さくらBK　海賊

正式種目



豪快な技で大活躍した大道寺選手（写真上）
武蔵Aに追い上げられる本学A（写真下）

駅伝女子　競技後に「中止」

原因に実行委のミス

「駅伝女子という競技種目は最初からなかったことに致しました」。駅伝大会閉会式、壇上の実行委員長の発表には誰もが耳を疑った。

二十二日に行われた駅伝女子は本学を除く三大学の選手が規定よりも短いコースを走り、競技上の不平等が生じた。この異例の事態を収拾しようとした結果が冒頭の発表だ。

事の発端は第二走者にたすきが渡った直後から。本学選手が規定通りグラウンドを一周したのに対し、他大選手はコースを誤認した先導者に従い、一周することなくグラウンドの外へ。コース確認のため行われた事前の試走会では、一部の大学が欠席し、四大学が揃わなかった弊害が露呈するかたちとなった。

競技直後から本学選手は余分に走った分を結果に反映させるよう求め続けたが、実行委が応じることはなかった。実行委の協議の末、結論が出た後も閉会式前に公表されることはなく、式の公表後は修正はできないことから、選手はなすすべがなくなった。

本学Aチームがゴールしたのは四番目で、公平に行われていればトップスリーも射程圏内だった。「シドニー五輪柔道の篠原選手のように、不公平な結果がそのまま確定しなかったのはよかった。ただ実行委内でもコース規定の解釈が異なっていたのはあんまりではないか」。女子チーム主将の塩原邦子（営四）は不満を隠すことはなかった。

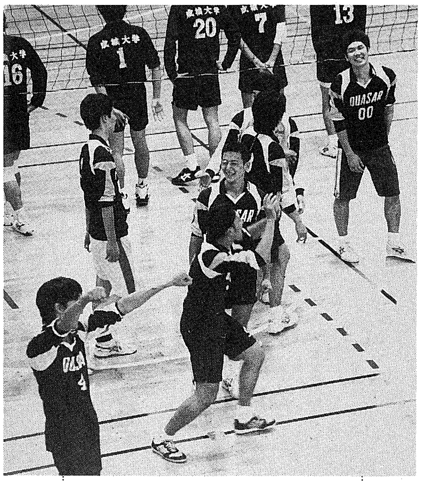
移り変る季節料理
割烹
海乃家
全室お座敷で
落ち着いた
ふんいき
大小コンパ承ります。
全室［個室宴会場
カラオケ無料
ご予算2,000円より（飲付）
高田馬場改札出口正面
☎ 本店 3209-7611（PM4～11）
支店 3208-9715

TAHEEBO
天然樹木茶
タヒボ®
大アマゾンの超医力が生んだ健康茶
健康茶で世界初の
抗癌剤特許取得
NFD®
Naphtho/ナフト　Furan/フラン　Dione/ディオン
日本特許第2669762号
米国特許第5663197号
台湾特許第092054号
NFDはタヒボの輸入販売元タヒボジャパン社が商標登録している特許名称です。
（登録番号：第4227591号）
●タヒボエッセンス（NET.60g 2g×30包）
標準小売価格 25,000円（価格）
●粉末タイプ（NET.150g）
標準小売価格 20,000円（価格）
●ティーバッグタイプ（NET.150g 5g×30包）
標準小売価格 20,000円（価格）
当社では、タヒボ茶のより効果的な飲み方、利用方法などをお客様一人一人にアドバイス致しております。どうかお気軽にご相談くださいませ。
タヒボ代理店　タヒボフローレンス
神戸本社　〒650-0022　神戸市中央区元町通り456　中野ビル
TEL 078-341-2118
EMAIL info@taheebo-f.com
URL http://www.taheebo-f.com/
0120-80-6288

タヒボ
TAHEEBO
NFD
TAHEEBO ESSENCE

ブロック冴えて優勝

バレーボール男子



歓喜に沸き返るクェーサーのメンバー達

【二十一、二十二日　大学体育館】「Cチームを準決勝で破っていたので、その分も絶対に勝たなくてはと思った」と宮崎良介主将（政四）は、歓喜の中で決勝戦を振り返った。

男子バレーは、三チーム全て同じサークルのクェーサーから出場した。そのうち、予選を勝ち抜いたAチームとCチームが準決勝で対決。白熱した試合をAチームが制して、決勝戦へと駒を進めた。

決勝戦の相手は成城大。1セット目は、序盤から両チームともに激しい攻防が続く競り合いとなった。

互いに決定打を欠く展開の中でも、終盤には本学がなんとか24－22と若干のリードを奪う。このまま試合を決めたいところだった本学。しかし、ここで成城側がタイムをとる。それが気の緩みを生んでしまったのか、本学は三連続得点を許してしまい、25－25でデュースに持ち込まれる。それでも本学は、相手側のカットミスにつけこみ、粘り強いプレイをみせて、27－25の僅差でどうにか1セットを先取。

続く二セット目、開始早々に宮崎主将のスパイクが決まったのをきっかけに、各選手が次々に強烈なスパイクを決めて得点を重ねる。完全に流れに乗った本学は、相手にブロックされてもネット際で確実にカバーして次の攻撃につなげていく。「チームに身長の高い人が多かったので、それを活かしてブロックを集中的に練習してきた」と宮崎主将が強い自信を持っていたのが、ブロック。それが功を奏して、相手のスパイクを封じる。

流れに乗った本学は、成城大をたたみかけてそのまま引き離す。終わってみれば、25－12と大差をつけて本学が優勝を決めた。

見事に優勝を手にいれた本学男子バレーボール。今回のクェーサーの優勝を契機として、本学の優勝が続くことを強く期待している。（白石和弘）

勝利決めた堅守

バスケットボール女子

速攻冴える本学

【二十、二十一日　高中体育館】試合終了の笛。息もつかせぬ接戦を制したのは本学女子（RUBBISH）だった。

危なげない試合運びで決勝へと駒を進めた本学。四大戦初出場にして大舞台に立った彼女たちは、優勝をかけて成城大と激突した。

本学はゴール下を固める守備で、相手がインに切り込むのを阻む。その結果、成功率の低いアウトからの攻撃しか相手に許さない。これで守備に不安がなくなった本学。インとアウト両方を有効に使った攻撃で相手の守備を翻弄し、次々とシュートを決める。それにより、攻撃のリズムに乗り、27－19と本学がリードして前半を終えた。

このまま快勝かと思われた後半だったが、本学はシュートがなかなか決まらず、攻撃のリズムがつかめない。逆に、相手に3ポイントシュートをコンスタントに決められ、一時は四点差まで詰め寄られてしまう。

そんな苦境の中、相手の反則で得たフリースロー。本学はそれを落ち着いて決め、なんとか流れを断ち切る。そのまま53－46で振り切り、見事優勝を手にした。

「みんなの応援が力になりました」。小原麻理絵主将（独二）はいまだ興奮冷めやらぬ面持ちで語った。

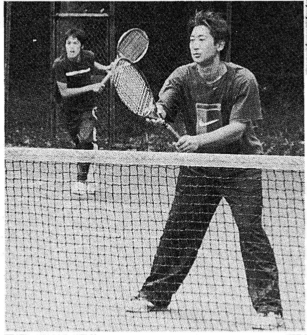
結成後間もないこのチームが初めて浴びた大歓声。それはこの接戦を制する大きな力となったに違いない。（小倉　剛）

一般種目

硬式テニス　完全制覇

女子ダブルス
男子ダブルス
混合ダブルス

運動部以外の学生の活躍の場となる一般種目。二年ぶりの優勝を期待された本学は、各種目で得点を重ねていく。その結果、2位の成城、武蔵大（35・5点）を大きくつきはなし、55・5点で見事優勝を飾った。



二連覇を飾った岩城（左）・石村（右）ペア（写真上）／積極的な攻めが光った石橋（右）・袴田（左）ペア（写真下）

【二十、二十一日　庭球場（朝霞・江古田）】男子、女子、混合ダブルス完全制覇の快挙を成し遂げた本学。中でも女子ダブルスを制したのは昨年同様、岩城観世子（英四）・石村仁美（営四）ペアだった。

二回戦は6－1の快勝で突破。迎えた決勝戦では本学同士の戦いとなった。

一セットマッチ（六ゲー先取）の規定の下進められた今大会。序盤、ゲームの主導権を握った二人は三ゲームを連取する。しかし、そのリードはすぐに底を突き四ゲーム目からは連続して三ゲームを奪われ同点とされてしまう。それでも「あせることはなかった。まだ十分返せると思ったから」と石村選手。

第五ゲームこそブレイクされたものの、それ以外のサービスゲームは全てキープしている。それだけに精神的に余裕があった。

その後も順調にサービスゲームをキープし、5－4とした勢いでファイナルゲーム、マッチポイントを迎える。

激しいラリーの応酬の末、岩城選手が相手ボレーを見事にカットし、ブレイク。結果、6－4で岩城・石村ペアの勝利となった。

「二連覇できて、本当にうれしい」。と語る二人。その笑顔が、全てを物語っていた。

男子ダブルス決勝も本学同士の対決となった。

日頃、サークルの先輩、後輩としてプレーする両ペア。手の内は知り尽くしているため、試合開始直後から熱戦が繰り広げられた。

「初めから攻める気持ちで試合に臨んだ」と石橋誉士選手（法三・たかし）。その言葉通り、ボレーを多用した攻撃的なプレーを展開し三ゲームを先取する。

その後も、サービスゲームを確実にキープし、6－3で石橋・袴田恵世（物三・けいせい）ペアが優勝を飾った。

更に、男子ダブルスを制した袴田選手は印藤まどか選手（英四）とペアを組んで混合ダブルスへ。決勝で6－2で成蹊大を下し、優勝を決めた。

本学の選手の活躍が光った今大会。来年度もこの活躍を目にすることを期待してやまない。（中西志帆）

三部門で大活躍

卓球

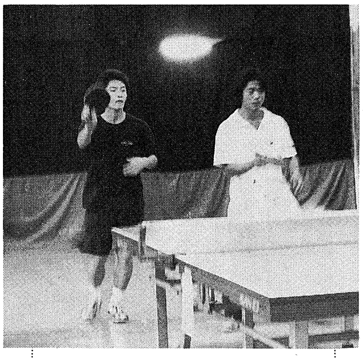
【二十二日　学生会館】一般種目の卓球は、男子ダブルスとシングルス、女子ダブルスが例年通りの強さを見せ、優勝を手にした。

男子ダブルスでは西澤宗貴（営三）・平田裕一（数四）ペアが二年連続優勝の実力を出した。

決勝の相手は本学の選手だ。第一セットは実力を遺憾なく発揮し、21－9で難なく先取した。

だが、第二セットで相手の追い上げにあい、22－20で逃げ切られてしまう。そして勝負の行方は第三セットへもつれ込んだ。

第三セットは頻繁にスマッシュが打たれる激しい展開。前半は互角の攻防だったが、西澤・平田ペアの見せた粘りが、徐々に相手のミスを生み始める。その隙に二人はドライブやカットでたたみかけ、21－17で、三連覇を成し遂げた。



見事三連覇を遂げた西澤（右）・平田（左）ペア

続いて男子シングルス。決勝はダブルスで組んでいた西澤選手と平田選手が今度は敵同士に別れて対決。西澤選手は終始激しく攻め、第一セットを圧勝。

続く第二セット、平田選手も負けじと反撃する。しかし、西澤選手の素早いドライブと強烈なスマッシュが平田選手の反撃をはね返し、21－12と優勝を決めた。

女子ダブルスでは渡辺正代（英四）・荒井由紀（政三）ペアが活躍。こちらも昨年の優勝者だ。息の合ったコンビプレーで決勝進出を果たした。

相手の勢いに第一セットを落とすも、二人は第二セットからは本領を発揮。21－7と圧勝すると続く第三セットも相手のミスを誘ってリードを奪う。そのまま21－17と逃げ切って優勝を飾った。「去年より試合全体のレベルが上がっていたが、二連勝できたのでうれしい」と試合後、渡辺選手は語った。（高橋充）

教職員種目

～今年は奮わず～

学生が汗を流す四大戦。しかし、参加しているのは学生だけではない。教職員も熱い戦いを繰り広げているのだ。

今年は硬式テニスが雨天中止。ソフトボールとバレーボールの開催となった。

ソフトボールでは、初戦の成蹊大戦で学生部の森川正和次長が満塁ランニングホームランを放つなど、いいところも見せた。しかし、守備の乱れなどから二試合とも敗退し、最下位に終わってしまう。

ソフトボールでの挽回を狙う本学。バレーボールは、過去オリンピックに出場したことのある、スポーツ健康科学センターの廣紀江助教授がコーチ。優勝への期待が高まるが、疲れからかサーブミスなどを連発し、こちらも最下位、総合成績でも最下位になってしまった。

今年度に出場した教員は計算機センターの入澤寿美助教授（＝写真）のみ、助教授は二種目ともキャプテンを務めチームを積極的にまとめた。今回の結果について助教授は「初めて参加した人も多く、精神的な弱さがあったのではないか。来年は優勝を目指したい」と語った。

その他の結果

○ソフトボール
- ・女子　Aチーム　優勝
- ・男子　Aチーム　3位

○硬式庭球
- ・男子　Aチーム　準優勝
- ・女子　Aチーム　準優勝

○卓球
- ・男子シングルス　Aチーム　準優勝
- ・男子ダブルス　Bチーム　準優勝
- ・女子シングルス　Aチーム　準優勝
- ・混合ダブルス　Bチーム　準優勝

○バレーボール
- ・女子　Aチーム　準優勝
- ・男子　Cチーム　3位

○バドミントン
- ・女子　Aチーム　準優勝
- ・男子　Aチーム　3位

○バスケットボール
- ・男子　Aチーム　3位

○サッカー　Bチーム　3位

※軟式野球は雨天のため中止。

デスクの片隅

「マンネリ化」。それが四大戦に対してよく聞かれる感想である▼今年も「順当」に二十一連覇、通算四十一勝目を挙げた本学。本学の「ひとり勝ち」という図式は自他ともに認めるところとなっている。しかし、この順当勝ちが、優勝をめぐるデッドヒートを期待できなくさせ、スポーツの魅力を奪ってしまっているというのだ▼確かに、四大戦の大会規約には「四大学の親睦を深めること」が目的として記されている。しかし、だからといって四大戦を勝敗を二の次とした「お遊び」だと解釈するのは間違いだ。なぜなら、規約の言う「親睦」は、真剣勝負の中でこそ得られるものだと私には思えるからだ▼そんな真剣勝負が四大戦からすっかり消え失せてしまったわけではない。雨による中止に猛抗議した軟式野球の選手たちがいた。駅伝の結果修正を必死に求める女子駅伝の選手たちがいた。真剣勝負だからこそ見られる場面が数多くあった▼確かに本学の連勝は、学生数の多さによるところが大きい。それでも、本学の連勝の背後には勝利の分だけの、あるいは敗北の分だけの「真剣勝負」があるのだ。（お）

11月2日(木)
午後5時より
ピラ校前ステージにて
初夜祭
1. DANCE APPLAUSE
2. スカイサウンズ・ジャズ・オーケストラ
3. 應援團チアリーダー部
4. 空手道部
5. 落語研究会
6. NO X-it
さまざまなパフォーマンスをごゆるりと御堪能ください。
第31回大学祭実行委員会

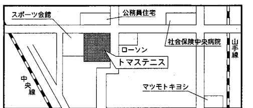
写真にも良い写真と悪い写真があるのをご存じですか
特に就職用写真は第一印象が大切。高品質の写真をつかいましょう。是非一度当店でお試し下さい。
各種記念写真も承っております。
一部、学割有り。
目白駅出て左へ徒歩1分
飯島写真場
℡03-3953-5055〜木曜定休

さくら　さくらラウンジ
クリスマス、忘年会のご予約承ります。
営業時間 9:30~21:00

カフェテリア杜
● ランチコーナー
● テイクアウトコーナー
● 麺コーナー（2階）
営業時間 11:00〜19:00
電話番号 03-5992-1551（内線2573）

砂入り人工芝
貸テニスコート
◇ 学割アリ
◇ 長期契約も可能
◇ 詳細　電話宛 TEL 3362-2271
○場所　大久保駅徒歩3分、新大久保駅徒歩6分
○年中無休
○時間　毎日　7:00〜21:00（何時間でも可）
○料金（1面1時間につき何人でも）

平日早朝	7:00〜9:00（平日のみ）	3,000円
平日	9:00〜12:00	3,800円
〃	12:00〜18:00	4,000円
土・日・祝日	7:00〜18:00	5,000円
ナイター	18:00〜21:00（4月〜8月）	5,300円

9月〜3月迄ナイター時間変更アリ
トマステニス
〒169-0073　東京都新宿区百人町2-23-27